

けまゆいと様貝と

海光るわが故里



昭和五十九年九月号
通卷第二十二号

鵺
沼を
語る
会



芥川龍之介「水虎晚帰之図」

希堂模写

ハランかスルガランか

富士 山

先日(6月22日)鵜沼海岸2丁目にお住いの岩田吉人さんという方から突然お手紙を頂いた。

鵜沼を語る会の第19号に「大正15年9月25日に、斉藤茂吉と土屋文明が、龍之介の二階家にハラン―鉢を持ってきた」との記事に対し、岩田氏が土屋文明氏にただしたところ、「自分達の持っていたのは、スルガランでハランではない」との返事があった。富士氏は何に基いてハランとされたか、とのお尋ねであった。

私は「芥川龍之介全集の書簡篇に出ているので、その通り信じてかいた(参考、会誌第5号芥川龍之介晩年の消息には、15年(大正)9月25日斉藤茂吉、土屋文明訪問、ハラン―鉢持参、長寿の祈りをこめて、と書いた)只今の土屋文明氏のおたよりを知り驚いた」と返事をした。

そこで、牧野富太郎先生の植物図鑑中のスルガランをコピーしてここに持って来ましたが、誠に美しいもので、ハランなど足元にもよれぬものと思います。同年暮、芥川一家が鵜沼を引きあげる際、このスルガランの一鉢を持って東京へ帰ったものと考えられる。そうすると、私達鵜沼を語る会の人々が、龍之介の借家にのこされたとするハランを採

ぐって、何回も何回も龍之介の二階家の跡をたずねたことが馬鹿々々しいように考えられて来ます。

が然し、一方で考えねばならぬことは、医学書などでは、初版よりも改訂第2版が、改訂第3版がと、最新版が重んぜられ、初版などは何の価値のないものとされています。

然るに文学書ではその反対で、最初版がひどく尊重される。仮令その中に誤りと思われるところがあっても、著者または編集者が、正誤表を出してその誤りを認めない以上は、初版の誤りはそのまま通るというのがならわしであります。

それにしても、龍之介全集にハランとなっているのを、今日まで4、50年も、土屋文

明氏が知らないで正誤表を出さなかったことは、うかつなことのように思われる。

一面には、ハランだったのか、スルガランだったのか、判っきりしないという気持もする。九月号には、本文とスルガランの図と、岩田氏の手紙をのせていただきたいと思っています。

(昭和五十九年七月七日記)

(手紙)

拝啓 突然御手紙差上げ失礼申上げます。

過日「鵠沼を語る会」の「鵠沼」第19号

のなかに、貴殿の書かれた「龍之介一家の住んだ二階建の家について」を拝読いたしました。

私の専門は植物病理学ですが、現在は停年退職の身であります。若い時から短歌を作っており、斉藤茂吉先生に師事、現在の先生は土屋文明先生です。

そこで、貴文のなかに「その家へ大正15年9月25日斉藤茂吉さんと土屋文明さん

が、ハランの鉢を持って見舞に来られた訳で

す」とありますので、コピーをとって参考のため土屋先生に送りました。

ところが、土屋先生のお返事に「……私たちが持参したのは葉蘭などではありません。いかに田舎者の我々でも葉蘭を見舞には考へつきません。品川駅乗車の前、近くの園芸店で求めた「するがらん」の相当立派なものでした。やがて花が出るだろうといふつもりでしたが、その花のことについては、又らんのことについてはその後芥川に会った時にも話が出ませんでした。……」とありました。

私も、病氣見舞に葉蘭を贈るというのは考えにくいことですが、「ハランの鉢を持って見舞に来られた」というのは何に基づくものなのでしょう。私も松永家の垣根越しに、

(ハランの古株を見ましたが、土屋先生から右のようなお手紙をいただきましたので、御参考までにおしらせいたしますと共に右の点についてお訊ねいたします。

私は昭和29年から当地に住んでおりますが、昭和45年末停年退職後、農業研究の国際協力のため、インドネシアに8年間行っておりました。昭和54年帰国し、引つづき現在地におります。

今後、お目にかかる機会もあるか、と存じますが、よろしくお願申し上げます。(略)

六月二十一日

岩田吉人

富士山様

するがらん (建蘭)

一名 をらん

Cymbidium ensirolium Sw.

本品元来我邦ニ野生セズ、駿州ニ在リト云フハ事実ニ非ラズ、実ハ支那産ニシテ蓋シ原ト福建地方ヨリ来リシナラン。

暖地ニ生育スル多年生ノ常緑草本ニシテ観賞蘭トシテ愛養セラル。

(略)

和名駿河蘭ハ此蘭駿河ヨリ出ヅトノ誤認ニ基ク。をらんハ雄蘭ノ意ニシテめらん即チ雌蘭ニ対シテノ名ナリ。

牧野植物図鑑)

芥川の鵠沼寓居跡の葉蘭について

葛巻左登子

七月の例会で、岩田吉人様から「大正十五年九月二十五日に、斉藤茂吉先生と土屋文明先生が芥川を見舞った時、従来は葉蘭を持参されたと言われているが、土屋先生は、当日駿河蘭をお見舞に贈った。と仰言っているらしい」という御指摘がありました。私は驚いて帰宅後、兄（義敏）に質しましたところ、兄は即座に「それは土屋先生の云われるのが本当に違いない」と申し、何んとも呆氣ないことになりました。それで委細を訊ねましたら、当日は、折悪しく叔母（文）は也寸志病氣のために田端の家に戻っており、また私の兄も

アテネ・フランセに通学のため上京して、その日は叔父（龍之介）とお手伝の二人だけだった様です。義敏は十四才の秋から叔父の傍で暮しましたので、鵠沼時代も叔母と代る代る、東家、伊の四号でも一緒でしたが、学校の都合でその二階家（海岸二丁目の松永家）には、その年の十二月末に初めて参りました。そして、先生方から蘭の鉢を頂いたという話を聞いておりましたのに、それが何処にも見当らないので叔父に訊ねましたら、縁先の葉蘭を指して、「それだ」と申したそうです。私の兄は元来、植物には全く無関係なので、叔父は誤魔化し易かったらしく、兄はまた、その言葉のままに信じてしまった様で「今にして思えば、その時の答え方は少し変だった」と

申しております。

では肝心の駿河蘭はどうなったのか、私どもにも全く不思議なので色々と思案致しました末に、当時、叔母（文）の弟が結核で、只今の私どもの隣りに母上と二人で療養生活をしておりましたが、頂いたお花が見事に咲いたので、叔母が主人（龍之介）に強請って、弟の病床に持参したのではなからうかと思いついたのでございます。叔父としては、先生方のお心の籠ったお花ゆえ、屹度、本意ないことだったろうと思いますが、日頃の気性から、それを拒むことも出来ず、また甥の義敏に事実を話すことも為し得なかった「芥川」に、私どもとしては、彼の家庭生活の不倖を見るのもいが致します。……従って現存の葉蘭は、

龍之介とは何んの係りもない次第でございます。

五十八年間も偽りに気付かず、私などは、皆様を現場に御案内までして、その呆け者ぶりは本当に穴があつたら這入り度く存じます。が、幸いにして、岩田様と、土屋文明先生の壮者を凌ぐ御記憶とに依り真実が判明致しまして、皆様には誠に申し訳もないこと乍ら、私どもは何よりも有難く存じました。

なお、中野妙子さんの著書には「その鉢は昭和二年に入って三月末までの留守中に、盗まれてしまった」と叔母が申した、と書かれておりますが、それは返事に窮した叔母の言訳でございましたでしょう。叔母の弟、塚本八州は昭和十九年六月に東京で、結核のまま、四十一歳で亡くなりました。

（一九八四・八・一五）

- 温続く平年より 3～7℃低い 6 月、熱帯低気圧で北陸中心に東海・関東・東北に豪雨（6.23）、関東地方豪雨被害出る（7-14）、北海道豪雨各地で河川氾濫（8.5）、16 年振りの大形台風 15 号関東に上陸東日本縦断各地で河川氾濫（8.23）北海道央中心に台風 18 号豪雨 3 度目の被害（9.4）、雨台風 24 号東京・千葉神奈川で河川氾濫（10.22～23）
- 1982 " 57 北海道浦河町で烈震（3.21）、浅間山 9 年振り噴火（4.26）、広島集中豪雨（7.三 6）、長崎中心に豪雨 死者不明者 300 人 生き埋め 183 人（7.23）、台風 10 号東海地方直撃死者不明者 80 名 鉄道寸断（8.2）近畿・東海・関東地方豪雨 交通マヒ（8.4）台風 18 号東日本を縦断 藤沢市内半壊浸水家屋 2002 軒（9.12）
- 1983 " 58 日本海中部地震津波 被害甚大（5.29）、島根中心に集中豪雨 死者不明者 112 人、丹沢中心に地震、台風 5 号四国より関東まで大雨被害（8.16～18）、集中豪雨各地で氾濫（9.12）、三宅島 21 年振り噴火家屋 410 戸の 90%焼失（10.3）、台風 13 号三宅島を襲う（10.11）
- 1984 " 59 新潟県豪雪 被害大（2.9～10）、鳥島近海地蔵（3.6）、硫黄島海城で噴火（3.7～8）、熊本県五木村集中豪雨山崩れ 死者不明者 14 人（6.29）

—以上—

- 注 1. 1984 年 7 月現在で編集。
 2. 無印は『藤沢市史年表』
 3. ※印は『標準日本史年表』 吉川弘文館
 4. ◎印は『新版年表小田原の歴史』 八小堂書店
 5. ○印は『藤沢宿災害略年表』 昭和 55 年 12 月 藤沢市文書館資料
 6. 1980 年以降は「朝日新聞」
 その他はそれぞれ文献名を個々に記載した。
 7. 編集は主として藤沢と周辺を中心とし、大災害は全国的なものも入れた。

人災的な火災は除いた。伝染病は天災に準ずるものとして扱った。

8. 「藤沢の災書史」の様なものが編集されることを望む。

編 集 久 保 尚 雄

1953	〃	28	※西日本水害 6月、和歌山県水害 7月
1954	〃	29	台風5号家屋被害全壊流失22（藤沢市新総合計画S 54.4）※洞爺丸台風 9月
1957	昭和	32	※インフルエンザ流行 5～6月、西九州豪雨 7月
1958	〃	33	台風22号江の島より上陸 市内死者3 被害甚大（9.27）※阿蘇山大爆発 死者12名 6月
1959	〃	34	伊勢湾台風 9月
1961	〃	36	台風6号 県下被害甚大死者57名、第二室戸台風 市内各地で多くの被害出る（9.11） ※日向灘地震 2月
1962	〃	37	三宅島22年振り大噴火（8.30）、都市にスモッグ発生 12月
1963	〃	38	※裏日本豪雪 死者76名 1月
1964	〃	39	新潟地震 死者26名 全壊家屋1960戸（6.16）

※山陽地方集中豪雨 7月、東京記録的酷暑と水不足

1965	〃	40	長野県松代町で群発地震始まる（8.3）
1966	〃	41	台風4号 柏尾川氾濫 100軒床上浸水（6.28） 台風26号 浸水倒壊の被害あり（9.24）
1967	〃	42	5月の異常渇水6月1日より20%節水
1968	〃	43	大雪降る（2.16）、※えびの地震 2月、十勝沖地震 5月
1969	〃	44	十勝沖地震 死者行方不明者52名（5.16）、集中豪雨（7.1）
1970	〃	45	※東京に光化学スモッグ発生
1971	〃	46	台風23号のため小田急藤沢一本町間不通（8.31）
1972	〃	47	記録的な集中豪雨全国で死者行方不明者52名 浸水約15万戸（7.3～13）藤沢突風雨（2.14）強風（3.20）台風6号（7.15）
1973	〃	48	江の島でヨット20隻強風で転覆（5.20）、集中豪雨（11.10）、 ※水不足と電力不足 7月
1974	〃	49	伊豆半島沖地震死者行方不明者52人全半壊家屋820戸（5.9）、集中豪雨（7.8）※鳥海山噴火 3月
1975	〃	50	※台風5・6号四国・北海道で被害
1976	〃	51	台風17号全国的被害、長良川堤防決壊 9月 小田急藤沢本町一善行間不通（9.9～11）
1977	〃	52	※和歌山県有田市集団コレラ 6月、有珠山噴火 8月
1978	〃	53	※伊豆大島沖地震 1月、宮城県沖地震 6月
1979	〃	54	※木曾御岳山噴火 10月
1980	〃	55	東北・上信越地方豪雪影響大 1～2月 伊豆半島沖地震（6.29）、静岡県地方大雨（6.9）、伊豆半島地震 交通止まる（7.7）富士山大落石（8.14）、冷害農作物被害大 7～8月、九州中北部 中国西部 被害大（8.30）、大形台風13号九州縦断山陰へ 影響大（9.11）、台風19号22都道府県に被害、東北・北海道太平洋岸に記録的大雪（12.24）、北陸など記録的豪雪交通まひ（12.30）、
1981	昭和	56	北陸地方豪雪 被害甚大（1.7）、東日本各地異常低

1907	〃	40	県下大洪水（8.23）、関東中心に大暴風雨（8.24） ○雷ひょうにより高座郡一帯被害 4月
1909	〃	42	※近江・美濃大地震
1910	〃	43	関東・東北豪雨 高座郡農作物被害大（8.1～14）
1911	明治	44	暴風雨で横浜港汽船難破 60隻余死者 30名（6.1） 雷雨で火災死亡者出る（7.14）
1912	〃	45	引地川出水 大庭耕地大泥湖水となる（市史資料 第27集 P27）
1914	大正	3	桜島大噴火 大隅半島と陸続きとなる（1.12）、 8～10月の間4回の風水害 特に高座郡被害大 台風西日本から関東地方に来襲被害甚大（9.14）
1915	〃	4	台風高波により江の島大栈橋約100間流失（10.8）
1917	〃	6	霜害で農作物被害大 藤沢地区最低温度 14℃（4.26） 東京中心に東日本で暴風雨（9.30）
1918	〃	7	台風で江の島その他浪害を受ける 8月
1919	〃	8	雷ひょうにより高座・鎌倉その他畑作に被害（10.10）
1920	〃	9	※流行性感冒大流行（スペイン風邪・相模風邪）
1921	〃	10	高座郡その他に雷ひょうの被害（10.29）
1923	〃	12	関東大震災 藤沢町被害 家屋 3200戸 死者 104 名 重傷者 216名
1924	〃	13	地震 藤沢北部で被害大 高座郡被害家屋 3000軒 死者 7名（1.15）
1925	〃	14	小出村 大雨のため農産物被害大、※関東大洪水 京都豊岡地方激震
1926	〃	15	六会村霜害 桑茶被害大（5.5）
1927	昭和	2	高座郡その他に雷ひょうの被害大（7.18）
1930	〃	5	箱根地震 豆相中心（11.26）
1932	〃	7	県下に暴風雨 高座郡で 3200戸藤沢で 76戸被害 （11.14～15）
1933	〃	8	40年来の早ばつ 7月、※三陸大津波
1934	〃	9	※室戸台風
1935	〃	10	暴風雨関東中心に被害大（9.24）、※東北凶作
1936	〃	11	※浅間山爆発
1937	〃	12	集中豪雨小田急線不通（7.17）（善行案内記）
1938	〃	13	豪雨により各河川増水（7.2） 20年振りの台風 豪 雨のため境・柏尾・引地川出水被害大（9.1）
1941	〃	16	豪雨市内各所に浸水家屋続出（7.18～22）
1945	〃	20	関東地方大雪善行で積雪 45cm（2.26）
1947	〃	22	キャスリン台風関東大水害（9.15）、※枕崎・阿久 根台風 9月
1948	〃	23	福井大地震（6.28） アイオン台風関東被害甚大（9.15）
1949	〃	24	キティ台風市内にも被害続出（8.31）
1950	〃	25	※ジェーン台風 9月
1951	〃	26	※関東地方大雪 2月、三原山爆発 3月、ルース台風 9月
1952	〃	27	※十勝沖地震 3月、明神礁爆発 9月

1856	安 政	3	関東地方大暴風雨 (8.25)
1857	"	4	羽鳥村水害冷害発生
1858	"	5	コレラ大流行藤沢宿と周辺で死者 149 人 7 月
1859	"	6	大水害藤沢地域で床上浸水多数
1860	万 延	1	大風により田畑被害 (8.16)、川名村水害 8 月
1862	文 久	2	○早ばつあり、麻疹流行 7～8 月
1868	明 治	1	西村旱損凶作
1869	"	2	暴風雨武相の村々被害 (7.13)
1870	明 治	3	大雨酒匂川堤防決潰 (7.19)、西村再度の天災
1871	"	4	天然痘大流行死者続出 (前年より)
1872	"	5	大雨 相川出水 (7.22)、暴風雨来襲難破船 4 死者 10 人鵠沼 (7.27)
1873	"	6	暴風雨市中家屋倒壊多数 浸水河川氾濫 (9.23) ○洪水により橋の流失相次ぐ 5 月
1875	"	8	県下に暴風雨来襲 (8.10)、相模川洪水 (8.18)
1876	"	9	暴風雨来襲 相模川・金目川氾濫 9 月
1877	"	10	県下に暴風雨来襲 (3.21) (10.11) ※全国にコレラ 流行死者 6817 人
1878	"	11	県下に暴風雨来襲 (7.4)
1879	"	12	県下に暴風雨 (9.11)
1880	"	13	県下に暴風雨 (2.19)、(4.25)、(10.3～4)、大雨氷雨 (4.25)
1881	"	14	県下に暴風雨 (9.14)、※信濃川決壊
1882	"	15	横浜にコレラ大流行、相模川出水馬人橋流失 (10.2)
1884	"	17	県下に暴風雨、横浜・鎌倉で破損 (9.15) 長明学校破損 9 月、竜口学舎破損 (11.9)
1885	"	18	コレラ流行県内で死者 10 万人以上、※隅田川洪水
1888	"	21	※磐梯山噴火
1889	"	22	※和歌山県大水害
1891	"	24	※濃美大地震
1892	"	25	台風で江の島仮橋 260 間流失 (7.23)
1894	"	27	強震 家屋倒壊 2 戸土蔵破損 4 戸地盤亀裂 (6.20) ※庄内地方大地震
1896	"	29	三陸地方大津波、赤痢大流行
1897	"	30	暴風雨のため六会小学校破損 (9.9) 暴風雨とうん かにより収穫 2 割減 ○耕余塾倒壊 9 月
1899	"	32	台風による高潮来襲 (10.7)
1900	"	33	東京にペスト流行
1901	"	34	県下に暴風雨 江の島架設橋流失 (12.26) 50 年振 りの大洪水相模川・酒匂川氾濫 (8.10)、赤痢流行
1902	"	35	足柄下郡に大津波 国府津～真鶴で被害甚大 (9.28)
1904	"	37	降雨による作物被害大 特に用田・西俣野 (7.8～12)、 暴風雨で江の島橋流失 12 月
1905	"	38	※台湾大地震
1906	"	39	水害により県南部に被害 (7.14)

			貢不足分の延納願を提出	11 月	※三原山噴火
1779	"	8	※桜島噴火		
1780	"	9	江戸を中心に水害、藤沢宿被害、大久保町 59 石 余・大鋸町 51 石余・坂戸町若干の年貢免除される		
1781	天 明	1	この年藤沢宿洪水による被害 大久保町 64 石余・ 大鋸町 61 石余の年貢免除 伊豆相模に大洪水		
1782	"	2	相模武蔵に地震・津波・山崩れ発生 (7.25) ○大凶作による天明の飢饉 ◎小田原大地震 7 月		
1783	"	3	浅間山大噴火 7 月、藤沢宿でも飢饉深刻、大久 保町 86 石余・坂戸町 103 石余、大鋸町 57 石余の 年貢免除、わらもち製法伝授の触書を出す		
1786	"	6	長雨、境川はんらん、大鋸橋流失、本願寺倒壊、 ※江戸開府以来の関東大水害		
1787	天 明	7	羽鳥村飢饉		
1789	寛 政	1	大島噴火		
1790	"	2	羽鳥村早ばつ		
1803	享 和	3	大島噴火、藤沢宿洪水、荘厳寺 2 尺余浸水	5 月	
1804	文 化	1	稻荷村田植日照続きのため年貢減免願提出	6 月	
			※出羽大地震 象潟湖崩る		
1807	"	3	羽鳥村水不足		
1810	"	7	※諸国飢饉		
1816	"	13	大庭・羽鳥・西俣野風損、※畿内・東海道暴風洪水		
1817	"	14	小笠原知行所 12 ヶ村早損		
1822	文 政	5	※西日本コレラ流行		
1823	"	6	羽鳥村塩風大風害、遠藤・辻堂も大風で倒壊 ※諸国旱害		
1826	"	9	今田村雨天続き被害出る		
1828	"	11	※越後大地震		
1829	文 政	12	藤沢宿洪水 荘厳寺 1 尺 6 寸浸水		
1830	天 保	1	※京畿大地震 全国大飢饉続く		
1833	"	4	田植時冷雨 8 月大風雨		
1836	"	7	羽鳥村不作凶作 関東・東北大飢饉 天保の飢饉		
1837	"	8	諸国飢饉餓死者多数 石川村夫倉米不足 35 両郷借		
1838	"	9	今田村長雨		
1844	弘 化	1	この年農村救荒令		
1846	"	3	大雨 境川氾濫 川筋被害甚大		
1847	"	4	※信濃善光寺付近大地震		
1849	嘉 永	2	早ばつ・大雨・冷害続く 市域内にも被害及ぶ		
1852	"	5	早ばつ・大雨・冷害続く 市域内にも農作物の被害 著し ※近畿風水害		
1853	"	6	関東地震 相模国大地震		
1854	安 政	1	諸国大地震 下田に津波来襲 (11.4)		
1855	"	2	小田原中心に地震 藤沢にも潰家出る 2 月 江戸大地震 藤沢宿も潰家多数 (10.2)		

1701	〃	14	西村農民 24 名困窮により年貢未進、○旱損
1702	〃	15	飢饉により羽鳥村の夫食米払底、羽鳥村夫食代馬飼料代として 90 両余の拝借金願を提出（この年の羽鳥村の飢人 113 人）
1703	〃	16	武蔵相模・安房・上総に大地震、津波（11.22） 羽鳥村では田が隆起し旱損場が増加する
1705	宝 永	2	◎酒匂川大洪水堤防決壊（6.30）
1706	〃	3	江戸地震（4.15）
1707	〃	4	◎足柄平野の西部一帯に大風被害あり（9.12） 関東大地震により小田原城も被害あり（10.4） 富士山噴火、宝永山出来る、相模・武蔵・駿河各国に降砂被害甚大、藤沢も降砂 16 日間、羽鳥村の全耕地砂に埋まる 8.9 寸～1 尺（11.23）
1708	〃	5	◎大雨のため酒匂川大洪水となり降灰を押し出す
1711	正 徳	1	※東海道大風雨、◎酒匂川大洪水（7.27）（6.22）
1712	〃	2	※諸国大水害
1720	享 保	5	羽鳥村、猪鹿の害大きいため早稲の早刈願を提出する
1721	〃	6	飢饉による大被害につき羽鳥村農民代官に夫食米拝借願を提出する
1725	〃	10	◎酒匂川大洪水堤防決壊
1728	〃	13	飢饉の被害甚大につき羽鳥村百姓より代官に夫食米拝借願提出（12.9）
1729	〃	14	※中国西海道大風雨、東国疫病
1731	〃	16	※諸国麻疹流行、◎酒匂川大洪水堤防決壊 5～6 月
1732	〃	17	飢饉で羽鳥村で 146 人の飢人が出る、この年西国筋蝗害により大凶作、死者多数（享保飢饉）
1734	〃	19	羽鳥村洪水で田は例年の 20～30 損耗、○洪水
1742	寛 保	2	※関東大水害
1744	延 享	1	江戸地震（3.24）
1749	寛 延	1	羽鳥村猪鹿の被害大、鉄砲拝借願提出 8 月、 この年関東大洪水、大久保町で 41 石余の年貢免除
1757	宝 暦	7	※関東洪水、東北飢饉
1766	明 和	3	関東大洪水、藤沢宿大被害 大久保町 89 石余・坂戸町 105 石余・大鋸町 60 石余の年貢免除さる
1767	〃	4	※諸国旱害
1768	〃	5	羽鳥村水害につき年貢減免願を提出 9 月
1769	〃	6	江の島弁財天の鳥居風により大破する 8 月
1770	〃	7	羽鳥村旱害につき年貢減免願を提出 種籾拝借願提出 7 月、この年関東大旱ばつ 大久保町 34 石余・坂戸町 50 石余・大鋸町 21 石余の年貢免除
1773	安 永	2	羽鳥村明和 8 年より 3 ケ年不作続き、年貢免除・助郷役免除願提出翌 8 月に 7 年間の定免決定 7 月 ※疫病流行 天皇痢病
1778	〃	7	羽鳥村田方不作につき代官所へ拝借金願及び年

1512	永 正	9	※関東地方飢饉
1535	天 文	4	この年早ばつが甚しく、咳が流行
1544	〃	13	※諸国洪水
1596	慶 長	1	※畿内大地震、亀井野村雲昌寺水災を被り、 今田村より亀井野村に移建され雲昌寺と改む
1604	〃	9	相模武蔵大地震（12.16）
1605	〃	10	この年関東諸国大風水害、大凶作となる
1614	〃	19	小田原地方に地震（1.22）
1624	寛 永	1	相模・伊豆・駿河地方に大地震、小田原城大破（1.21）
1631	〃	8	江戸地震（6.24）
1632	〃	9	◎駿河・伊豆・相模地方に大地震あり、小田原 城大破する（1.21～22）
1642	〃	19	3～7月飢饉あり、羽鳥村では30石弱の荒地高と なる、※諸国飢饉、百姓に米の常食を禁じ、う どん・そば・まんじゅうの商売を禁ず
1647	正 保	4	相模・武蔵地震
1648	慶 安	1	相模地震（4.22）
1649	〃	2	江戸・川崎地震（7.25）
1650	〃	3	江戸地震（3.24）
1654	承 応	3	◎大雪のため里に下りる鹿を打たないように触 が出る（12.8）
1662	寛 文	2	※西日本地震
1669	〃	9	※西日本洪水
1670	〃	10	相模地震（6.5）、※東海道・関東洪水、越後村 上大地震
1674	延 宝	2	関東・東海・九州・四国地方洪水、諸国飢饉 8月（翌年に及ぶ）
1676	〃	4	◎小田原地方に大風雨あり、酒匂川・早川の 出水 371軒倒潰 回船 6 漁船 15破損（8.12）
1677	〃	5	関東・奥羽地方に地震、津波被害甚大 10月
1682	天 和	2	◎不作続きのため年貢不納分免除 1月
1694	元 禄	7	羽鳥村早損による書上を代官え提出 8月 鵜沼・稲荷・羽鳥・川戸・赤羽根の5ヶ村猪鹿 による作物の被害大きく難洪の旨を訴える。
1695	〃	8	◎酒匂川大洪水堤防決壊（7.15）
1697	〃	10	藤沢地域に地震、羽鳥村数年来の早損による村 方困窮を理由に助郷役の軽減を願い出る ○相模・武蔵大地震 10月
1698	〃	11	大磯・平塚両助郷村々困窮により中郡の天領・ 私領諸村に助郷役を平均化しよう嘆願 5月 大磯・平塚両宿の大助郷村々の困窮により助郷役 を免除・軽減願を提出 6月。羽鳥村、数年来の早 損による村方困窮を理由として助郷役の軽減を 願出る。
1699	〃	12	○大風長雨のため飢饉
1700	〃	13	◎酒匂川大洪水堤防決壊（7.15）

1230	寛 喜	2	全国大風雨 8 月、大飢饉餓死者多し
1237	嘉 禎	3	鎌倉大雨洪水 (3.9)
1241	仁 治	2	鎌倉大地震 (2.7) , (4,3)
1244	寛 元	2	鎌倉洪水 (H.3)
1245	〃	3	※京都大地震
1247	宝 治	1	鎌倉大地震 (H.26)
1248	〃	2	相模川の水赤くなる、1 週間後には薄らぐ (6.9)
1251	建 長	3	鎌倉大洪水 (4.23)
1253	〃	5	鎌倉大風雨 (2.3)、鎌倉大地震 (2.25) , (6.10)
1254	〃	6	鎌倉大風雨 (7.1)、※京都大地震
1256	康 元	1	※鎌倉大洪水、赤斑病流行
1257	正 嘉	1	※鎌倉大地震被害甚大 (8.23)
1258	〃	2	鎌倉大雨洪水民家流失、死者多数 (iO.1G)
1259	正 元	1	幕府陸奥国の地頭に窮民の救済を命ずる、 この年諸国に飢饉、疫病流行
1265	文 永	2	鎌倉大雨、扇谷、亀谷の山崩れ死傷者を出す
1270	〃	7	※阿蘇山噴火
1289	正 応	2	鎌倉大風雨 (2.4)
1290	〃	3	諸国洪水 (10.3)
1291	〃	4	鎌倉大雨洪水、人家漂流する (7.1)
1293	永 仁	1	※鎌倉大地震、死者 2 万余人
1305	嘉 元	3	鎌倉大地震 (6.5)
1307	徳 治	2	関東大地震 3 月
1317	文 保	1	京都大地震、数ヶ月続く
1323	元 享	3	鎌倉大地震 (5.3)
1325	正 中	2	※京都大雷雨洪水
1341	南・興国	2	十三湊津波で潰滅
	北・暦応	4	
1361	南・正平	16	※近畿大地震、四天王寺金堂倒壊
	北・康安	1	
1370	南・建徳	1	※東国大風大飢饉
	北・応安	3	
1394	応 永	1	※阿蘇山大噴火
1407	〃	14	※会津大地震
1419	〃	26	関東大地震 10 月、関東飢饉 12 月
1420	〃	27	鎌倉大地震 (8.10)、次いで洪水
1424	〃	31	※諸国飢饉、悪疫流行死人多し
1428	正 長	1	※飢饉、疫病流行
1433	永 享	1	関東大地震 (9.16)
1438	〃	10	※諸国大飢饉
1449	宝 徳	1	※山城大地震
1450	〃	2	※浅瀬山噴火
1452	享 徳	1	諸国に大雨洪水、山崩れあり多数死傷 4 月
1460	寛 正	1	翌年につけ飢饉死者多数、年貢未進、逃散、水 論等各地に頻発 (寛正の凶作)
1463	〃	14	鎌倉大風雨 (6.24)

966	康保	3	※諸国疫病、京都洪水
975	天延	3	※諸国風水害
976	貞元	1	※京都大地震
980	天元	3	※京都大暴風雨、被害甚大
989	永祚	1	※京都大風、古今無比
993	正暦	4	※ほうそう流行
994	〃	5	※疫病西国に起こり諸国に流行
995	長徳	1	※疫病流行
998	〃	4	※ほうそう流行
1001	長保	3	※疫病流行
1015	長和	4	※咳病及び悪疫流行
1017	寛仁	1	※いなごの害甚し
1020	〃	4	※ほうそう流行、京都暴風
1025	万寿	2	※赤班病流行
1032	長元	5	富士山噴火
1034	〃	7	※京都大風、洪水
1040	長久	1	※大風で外宮倒壊
1047	永承	1	※諸国ひでりの害
1052	〃	7	※疫病流行
1077	承暦	1	※ほうそう流行
1083	永保	3	富士山噴火（3.28）
1084	応徳	1	※京都大風
1091	寛治	5	※大暴風雨
1092	〃	6	諸国大風洪水
1096	永長	1	※大地震、近江勢多橋破壊
1099	康和	1	※近畿大地震
1106	嘉承	1	※疫病流行
1114	永久	2	全国飢饉 6月
1134	長承	3	京都を中心に洪水・飢饉・咳病流行
1141	永治	1	※洪水
1151	仁平	1	※大風雨、洪水、宇治橋流失
1155	久寿	2	諸国飢饉
1175	安元	1	※ほうそう流行
1180	治承	4	全国飢饉
1182	寿永	1	※全国飢え疫病流行、死者巷に満つ
1201	建仁	1	※諸国大暴風雨
1213	建保	1	鎌倉大地震（5.21）,（8.19）
1214	〃	2	鎌倉洪水（8.7）
1215	〃	3	鎌倉大風、鶴岡八幡宮大鳥居破損（8.18）
1216	〃	4	江の島と片瀬との間の海底隆起し通路（1.15）
1222	貞応	1	江の島神社で祈雨七瀬のおはらいをする（6.6）
1227	安貞	1	鎌倉大地震 3月
1229	寛喜	1	鎌倉地震（11.30）

災 害（天 災）略 年 表

昭和 5 9 年 9 月 編集 久保尚雄

西暦	年号	記事
642	***	※地震多し
685	***	※四国大地震
701	大 宝 1	相模国など 17ヶ国煙害大風害（8月21日）
703	〃 3	相模国で疫病流行薬支給される（5.16）
～ 705	慶 雲 5	※連年凶作のため減税
721	養 老 5	※凶作のため減税
724	神 亀 1	※諸国大地震
734	天 平 6	諸国地震圧死者多数 4月
737	〃 9	東海道など六道に赤班流行、諸国々司宛てに 7ヶ条に及ぶ治療法を布告
761	天平宝字 5	※翌年につけ凶作餓死者多し
765	天平神護 1	相模・下野・伊予・隠岐国などに飢饉起る（2.15）
781	天 応 1	駿河国司、富士山噴火を報告 6月
800	延 暦 19	※富士山噴火
802	〃 21	富士山噴火（1.5）「（4.19）足柄路焼碎石でふさがれたため宮荷（はこね）に道を開く、翌年足柄路復 1Uしたため「はこね」路廃止（5.8）」、※凶作
806	大 同 1	※洪水
814	弘 仁 5	※ほうそう流行
815	〃 6	※りん雨、諸国被害多し
818	〃 9	相模国など五ヶ国に地震、多くの農民圧死 7月
826	天 長 3	富士山噴火
840	承 和 8	伊豆に大地震起る（5.3）
853	仁 寿 3	※ほうそう流行死者甚だ多し
855	斉 衡 2	相模国飢民賑給を受ける閏 4月
858	天 安 2	※九州暴風雨、京都洪水
864	貞 観 6	富士山噴火、駿河国で報告あり（5.25）
869	〃 11	富士山噴火 9月、※陸奥大地震大津波
878	元 慶 2	関東大地震（9.29）特に相模・武蔵両国の被害は大きく、公私の屋舎全壊、往還不通、農民の圧死、国分寺で仏像破壊、※京都飢饉
887	仁 和 3	※畿内大地震津波
915	延 喜 15	※大旱害、ほうそう流行
917	〃 17	※旱天久し、京中の水かれる
930	延 長 8	※疫病流行
937	承 平 7	富士山噴火、※湖水を埋む
944	天 慶 7	※京都大暴風雨
947	天 暦 1	※京都大暴風雨、ほうそう天皇・上皇罹患
956	〃 10	ひでりの災害で東海・東山道の田租免除 7月
962	応 和 2	※京都鴨川洪水

「 鵠 沼 」 昭和 5 9 年 9 月 号
通 卷 第 2 2 号

昭和 5 9 年 9 月 1 1 日 発行
編 集 鵠 沼 を 語 る 会

藤沢市鵠沼海岸 2 - 1 0 - 3 4
鵠 沼 公 民 館 内
電話 3 3 - 2 0 0 1 、 2 0 0 2